

## I 科目登録について

### ポイント1 必修科目について

「科目登録の手引き」とシラバスを熟読し、単位不足のないよう履修計画を立ててください。助手にアドバイスを求めるなどして、自分の興味・関心のある分野の授業がどれなのかを探してみることをおすすめします (助手のメールアドレスは IV-3 に記載)。

必修講義 (6 科目) はすべて履修しなければならない科目なので、早い段階で履修しておくとうよいでしょう。選択演習は「重複履修」が可能。同じ科目を次の年度にも履修することができ、卒業単位として加算されます。

### ポイント2 「語学」科目の履修について

哲学コースでは、哲学書を原典で読むために、ドイツ語、フランス語、ギリシア語、ラテン語、アラビア語といった英語以外の言語の履修を強く推奨しています。

2 年次のうちに、是非とも上記の言語を一つ、または複数学び、哲学を学ぶための基礎力を身に付けてください。1 年次の必修外国語でドイツ語やフランス語を履修している場合は、2 年次に「講読」の授業を履修することを推奨します。また、1 年次にドイツ語・フランス語を履修していない場合や、ラテン語・ギリシア語をすばやく学びたい場合は、「速習ドイツ語」「速習フランス語」「初級ラテン語 (速修)」「初級ギリシャ語 (速修)」といった授業を履修すれば、半期で初級一年分が学べます。

### 授業形態の多様化に伴う注意事項

2020 年度は感染症対策としてオンライン授業がおこなわれましたが、2021 年度は、現在のところ、多くの授業が対面でおこなわれる予定です。しかし、2021 年度も引き続きオンライン授業をおこなう教員もいます。フルオンデマンド形式あるいは一部オンデマンド形式 (対面授業との組み合わせ) の授業については、各自、空いた時間に受講することができますが、リアルタイム形式の授業については、とくに自宅でリアルタイム授業を受講する場合、その前後の対面授業を受講するために、自宅とキャンパスとの間の移動時間を確保する必要があります。移動時間を確保できるように十分に注意して、履修計画を立ててください。哲学コースのリアルタイム授業は以下のとおりです。

〈2021 年度 哲学コース リアルタイム授業〉

哲学専門講義 1 (ドイツ哲学/現代哲学)	春学期	火曜 4 時限
哲学演習 1 (ドイツ哲学/現代哲学)	春学期	火曜 3 時限
哲学演習 8 (ドイツ哲学/現代哲学)	秋学期	火曜 3 時限

## II LA について

哲学の学びのサポートのために、哲学学修支援室 (LA) という仕組みがあります。哲学の学習法や、おすすめの入門書、レポートの書き方、(いまさら聞けない?) 初歩的な質問、語学の参考書などなどについて、大学院生が相談にのります。曜日と時間帯は哲学コースのホームページに近日中に記載予定。場所は 33 号館 5 階 501 です。

## III 読書会について

学生が主体になって読書会を開催しています。新しく読書会を始めたいが、どのような本を読書会の題材に選んだらよいか分からない場合は、助手が相談にのります。

#### IV その他

##### (1) Waseda メールを活用

教員や事務所とのやり取りは基本的に Waseda メールでおこなうので、こまめにチェックする習慣をつけること。Waseda メールから Gmail 等への転送設定ができるのでおすすめ。

##### (2) 早稲田大学哲学会機関誌『フィロソフィア』の配布について

『フィロソフィア』最新号を哲学コース室（33 号館 5 階 502）にて配布しています。

##### (3) 助手の連絡先

科目登録の相談等、質問したいことがあれば下記の助手あてにメールで質問してください。

児玉一嶺 tikizyouzi3@aoni.waseda.jp

2021年度 講義・演習一覧

哲学専門講義1 (ドイツ哲学/現代哲学)	必修	哲学的歴史理論の射程	2年以上	春	鹿島 徹
哲学専門講義2 (英米哲学/現代哲学)	必修	分析哲学入門	2年以上	春	伊藤 遼
哲学専門講義3 (中世哲学)	必修	なぜ何ものも無いのではなく、何かが存在するののか	2年以上	春	小山田 圭一
哲学専門講義4 (フランス哲学/現代哲学)	必修	現代における思考のプラクシス	2年以上	秋	西山 達也
哲学専門講義5 (宗教哲学/キリスト教思想)	必修	宗教哲学の内実と多面的な検討	2年以上	秋	西村 雄太
哲学専門講義6 (古代ギリシア哲学)	必修	アリストテレスのカテゴリー学説	2年以上	秋	岩田 圭一
西洋思想史1 (古代)		古代ギリシア哲学	1年以上	春	岩田 圭一
西洋思想史2 (中世)		西洋中世哲学の三人	1年以上	秋	石田 隆太
西洋思想史3 (近代)		パッションとは何か: その歴史と現在	1年以上	春	西山 達也
西洋思想史4 (近現代)		分析哲学の発展と論理学の進歩	1年以上	秋	伊藤 遼
美学		藝術と哲学	1年以上	春	高橋 陽一郎
哲学2		現象学における時間と歴史の問題	1年以上	秋	橋詰 史晶 峰尾 公也
倫理学2		近代倫理学と現代社会の問題	1年以上	春	御子柴 善之
宗教学1		イスラーム思想	1年以上	秋	小村 優太
哲学演習1 (ドイツ哲学/現代哲学)	選択	哲学へのいくつかの道	2年以上	春	鹿島 徹
哲学演習2 (英米哲学/現代哲学)	選択	ラッセルの科学的哲学の試み	2年以上	春	伊藤 遼
哲学演習3 (中世哲学)	選択	カンタベリーのアンセルムス	2年以上	春	矢内 義顯
哲学演習4 (フランス哲学/現代哲学)	選択	モーリス・メルロ＝ポンティ「人間の科学と現象学」を読む	2年以上	春	西山 達也
哲学演習5 (宗教哲学)	選択	アルベルトゥス・マグヌス『擬ディオニュシオス「神秘神学」注釈』を精読する	2年以上	春	小村 優太
哲学演習6 (古代ギリシア哲学)	選択	ギリシア哲学における世界観と人生観	2年以上	春	岩田 圭一
哲学演習7 (ドイツ哲学/近代哲学)	選択	カント『純粋理性批判』を読む(入門)	2年以上	春	御子柴 善之
哲学演習8 (ドイツ哲学/現代哲学)	選択	ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」を読む	2年以上	秋	鹿島 徹
哲学演習9 (英米哲学/現代哲学)	選択	『論理哲学論考』を読む	2年以上	秋	伊藤 遼
哲学演習10 (中世哲学)	選択	ニコラウス・クザーヌスの主要著作を読む	2年以上	秋	矢内 義顯
哲学演習11 (フランス哲学/現代哲学)	選択	モーリス・メルロ＝ポンティ「人間の科学と現象学」を読む	2年以上	秋	西山 達也
哲学演習12 (美学/近代日本哲学)	選択	明治期の美学/芸術学の思潮	2年以上	秋	島村 幸忠
哲学演習13 (古代ギリシア哲学)	選択	アリストテレス哲学における基礎概念	2年以上	秋	岩田 圭一
哲学演習14 (ドイツ哲学/近代哲学)	選択	カント『純粋理性批判』を読む(発展)	2年以上	秋	御子柴 善之
哲学演習15 (現代倫理学/応用倫理学)	選択	現代徳倫理学への導入	2年以上	秋	村松 聡

※「選択」は選択必修科目

哲学コースのホームページ (<http://www.waseda.jp/philosophy/>)

お知らせや催し物の告知、LA 情報などを掲載しています。定期的に確認してください。



早稲田大学 文学学術院  
Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

早稲田大学 文学部/文学研究科

# 哲学コース



[トップ](#) [時間割](#) [読書会](#) [早大哲学会](#) [機関誌](#) [卒業論文](#) [学位論文](#) [奨学金](#) [教員紹介](#)

## TOPICS

- シンポジウム「プロクロスから東方キリスト教へ」開催のお知らせ  
哲学コース教員の小村優太先生が主催されるシンポジウムが、**2021年3月6日(土)**にオンラインにて開催されます。詳細につきましては、[こちら\(PDFファイル\)](#)をご覧ください。
- 春季休業のお知らせ  
**2021年2月2日(火)**から**3月31日(水)**まで、春季休業のため哲学コース室を閉室といたします。またLAにつきましても、この期間は運用を行いませんのでご注意ください。(2021年度のLAの運用方法につきましては、改めてお知らせいたします。)  
期間中、哲学コースへのご連絡は助手のメールアドレスへお願い申し上げます。  
(助手 児玉: [tikizyouzi3@aoni.waseda.jp](mailto:tikizyouzi3@aoni.waseda.jp))

## ◆過去のお知らせ

## NEWS

- 2021年2月17日  
シンポジウム「プロクロスから東方キリスト教へ」開催のお知らせをTOPページに掲載しました。
- 2021年1月18日  
春季休業のお知らせをTOPページに掲載しました。
- 2020年11月30日  
2020年度大学院哲学コース説明会のお知らせをTOPページに掲載しました。
- 2020年11月23日  
2020年度早稲田大学哲学会秋季フォーラム(開催:12月5日)のお知らせを掲載しました。
- 2020年11月6日  
哲学コース室の閉室再開と、進級ガイダンスについてのお知らせをTOPページに掲載しました。

文学部ホームページ

マイワセダ

交通アクセス

## 哲学コース室

- ◆開室時間  
月曜日13時~16時
- ◆お問い合わせ  
TEL 03-5286-3636  
(内線: 72-3885)  
助手: 児玉一嶺  
[tikizyouzi3@aoni.waseda.jp](mailto:tikizyouzi3@aoni.waseda.jp)
- ◆場所  
〒162-8644  
東京都新宿区戸山1-24-1  
戸山キャンパス33号館502
- ◆[コース室利用予定表・使用届](#)



## 教員紹介

### 哲学コース専任教員

教員名	専門分野	研究室
岩田 圭一 教授	西洋古代哲学	33-1315
鹿島 徹 教授	哲学	33-1314
小島 雅春 教授	英米系近現代哲学	33-1308
小林 信之 教授	美学、感性文化研究、現代哲学 (ハイデガー研究、近代日本の文化哲学)	33-1510
小村 優太 専任講師	中世アラビア哲学、宗教哲学、比較思想、思想史	33-1303
西山 達也 教授	フランス近現代哲学	33-1310
御子柴善之 教授	カントを中心としたドイツ近現代哲学、倫理学	33-1313
村松 聡 教授	近現代哲学、応用倫理学	33-1302

[RETURN TO TOP](#)



### 哲学コース室

◆開室時間  
月曜日13時～16時

◆お問い合わせ  
TEL 03-5286-3636  
(内線: 72-3885)  
助手: 児玉一嶺  
tikizyouzi@aoni.waseda.jp

◆場所  
〒162-8644  
東京都新宿区戸山1-24-1  
戸山キャンパス33号館502

◆コース室利用予定表・使用届

この教員紹介は2021年2月現在のものです。小島先生は2021年3月をもってご退職になります。2021年4月に、英米哲学がご専門の伊藤遼先生が着任される予定です。

## 教員からのメッセージ（御子柴 善之）

東日本大震災・原発震災から10周年、社会がなおCOVID-19の影響下にある状況で、哲学コースに進級したみなさん、大歓迎です。このような時代状況だからこそ、私たちは「世界とはなにか」「グローバル化とはなにか」「国家と個人との関係はどうあるべきか」などと〈問う〉ことを反復しなくてはなりません。学生と教員、学生と学生が刺激し合って、考えを深めていきましょう。

そのためには、哲学コースの特色をよく理解することが大切です。第一に、早稲田大学の哲学コースは、古代から現代に至るさまざまな哲学、近現代における英独仏の哲学、さらには、美学・宗教学・倫理学を学ぶことができるという構えをもっています。新たに近代日本の哲学も加わりました。これは、他大学の哲学コースになかなか見られない特色です。いろいろ学んでみよう、という気持ちを大切にしてください。思わぬ出会いや発見がいたるところで待っているはずですよ。

第二に、哲学演習が重複履修可であることも特色です。自分が繰り返し学びたいと思っている分野について重複履修をすることで、同じ分野に関心をもっている仲間を見つけることができます。そうした仲間には遠慮せずに声を掛けてみましょう。哲学論文は一人で書くことが多いですが、「哲学する」という営みは仲間がいることで格段に促進されるからです。他人から声が掛かるのを待つのではなく、自分で仲間を見つけて、ぜひとも読書会などを企画してください。

私は、カント哲学を中心とした近現代ドイツ哲学を研究しつつ、それを基盤にして現代の環境倫理学の営みに参加しようと思って研究を進めています。一方で、カントのいう「理性」がどうやら世間で理解されているものとは異なることに注目し、他方で、〈はやり言葉〉かつ〈お守り言葉〉となったSDGsに対してその根拠を問いながら、この二面を統合する視点を社会倫理学として提示したいと思っています。みなさんから多くの刺激を得られるのを期待しています。どうぞよろしくお願いたします。

## 教員からのメッセージ（西山 達也）

私の専門演習や卒論演習ではフランスを中心とする現代哲学・現代思想を幅広く学んでいます（「フランスを中心とする」、と書いたのは、現代においては「フランス哲学」が単体では成り立ちえず、一方でドイツ哲学、他方で英語圏の哲学と、密接に関わっているからです）。この分野においては、哲学の裾野を広げる多様な挑戦をおこなった哲学者・思想家たちが活躍してきました。とりわけ20世紀においては、メルロ＝ポンティ、サルトル、レヴィ＝ストロース、リクール、フーコー、ドゥルーズ、デリダといった哲学者たちが、人文科学、社会科学、自然科学の諸領域との境界を行き来しながら哲学の新たな地平を切り開いてきました。現在、哲学という学問は、理性の可能性を突き詰めるとともに理性の限界に触れるような《自由な思考》の可能性を追究する学問として、益々必要とされるようになってきています。新2年次生の皆さんが、授業や読書会を通じて、このような《自由な思考》の力を養い、哲学コースの新たな風となることを大いに期待しています。ちなみに私の専門演習では、今年度はメルロ＝ポンティの「人間の科学と現象学」というテキストを読む予定です（『メルロ＝ポンティ・コレクション 第1巻』所収、みすず書房）。現象学の領域について学ぶだけでなく、人間の科学（すなわち人文学）とは何であるのか、そして哲学は人間について何を語りうるのかを、共に考えていきたいと思えます。フランス語の原典と日本語訳の両方を用いながら授業を進めますが、フランス哲学や現象学に興味があるけれどフランス語未習だという人も履修できるようになっています。皆さんと授業やキャンパスでお会いできることを楽しみにしています。

## 教員からのメッセージ（岩田 圭一）

哲学コースに進級した皆さんは、いかに生きるべきかという生き方の問題や心の問題、現代社会が抱える諸問題について、哲学の立場から考えていこうと、哲学コースを選ばれたのだと思います。どの時代の、どのような哲学に関心があるにせよ、哲学の始まりである古代ギリシア哲学には必ず触れてもらいたいと思います。西洋の哲学者たちはみな古代ギリシア哲学に対して何らかの態度表明を行っています。皆さんも、プラトンの対話篇やアリストテレスの著作を手にとって、自身の思索の糧にしたり、踏み台にしたりしてほしいと思います。

私の専門領域は古代ギリシア哲学です。皆さんには、哲学コースの学生の教養として、ぜひ古典ギリシア語を学んでもらいたいと思います。デルポイのアポロン神殿に刻まれていた「汝自身を知れ（γνώθι σεαυτόν/σαυτόν）」（ソクラテスの教説と関係づけられる格言）、プラトンがヘラクレイトス主義者の考えとして語っている「万物は動いていて流れている（κινεῖται καὶ ῥεῖ... τὰ πάντα）」、ハイデガーがその主著の巻頭に掲げるプラトン『ソフィスト』の一節などを原文で理解できるようになります。文学部には初級の授業が二種類あります。一つは、週1回、春学期と秋学期に開かれている、「初級ギリシャ語1」と「初級ギリシャ語2」です。もう一つは、春学期に開かれている週2回の授業、「初級ギリシャ語（速修）」です。1学期で集中的に勉強して文法を習得したい人は「初級ギリシャ語（速修）」を、じっくり学びたい人は「初級ギリシャ語1」と「初級ギリシャ語2」を履修してください。初級を終えたら、中級や講読の授業がありますので、読解力を身につけるためにこれらの授業を履修することをお勧めします（科目の構成については文学部 HP の科目登録ページにある「古典語学習について」をご覧ください）。

ギリシア語の知識を身につければ、プラトンやアリストテレス、さらにはヘレニズム・ローマ期の哲学者のテキストを原文で読むことができるようになります。古代哲学には、多様な解釈が可能なテキストを解説するような楽しさがあります。一人でも多くの方がギリシア語を習得してくれることを期待しています。

## 哲学コース教員推薦書一覧

編集：哲学コース室

以下の参考文献表は哲学コース専任教員に対しておこなったアンケートの回答に基づいて作成した。挙げていただくようお願いしたのは次のA、Bそれぞれにつき5冊以内。

- A……哲学史・概説・入門
- B……一次文献（翻訳）

### 岩田 圭一

A

1. 加藤信朗『ギリシア哲学史』東京大学出版会、1996年  
古代ギリシア哲学の成立から古代末期の哲学まで取り上げた書。ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学について詳しい論述が行われている。
2. 岩田靖夫『ギリシア哲学入門』ちくま新書、2011年  
人はいかに生きるべきかという問題意識のもと、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学を取り上げ、戦争や宗教についても考察した入門書。
3. 廣川洋一『ソクラテス以前の哲学者』講談社学術文庫、1997年  
ソクラテス以前の哲学者の思想を取り上げ、その意義を明らかにした書。
4. 藤沢令夫『プラトンの哲学』岩波新書、1998年  
イデア論を中心とするプラトン哲学についてわかりやすく論じ、その現代的意義を明らかにした書。プラトン哲学の基礎であるソクラテスの思想も取り上げられている。
5. 山口義久『アリストテレス入門』ちくま新書、2001年  
アリストテレスの論理学、自然学、形而上学、倫理学などを取り上げ、アリストテレスの思考方法を明らかにした入門書。

B

1. プラトン『ソクラテスの弁明』三嶋輝夫訳、講談社学術文庫／納富信留訳、光文社古典新訳文庫  
プラトンの初期対話篇の一つで、ソクラテスが法廷で自身の哲学と生き方について語る様子を描いた書。多数の邦訳があるが、ここに挙げた二つの訳は、文庫で手に入る比較的新しい邦訳である。
2. プラトン『パイドン』岩田靖夫訳、岩波文庫  
プラトンの中期対話篇の一つで、魂の不死を主題とした書。想起説やイデア論など、プラトン哲学の基本的な学説が示されている。
3. プラトン『国家』藤沢令夫訳、岩波文庫  
中期対話篇に分類されるプラトンの主著。正義が主題であり、魂の三部分説や哲人王思想、善のイデアに関する説明など、重要な学説が示されている。
4. アリストテレス『形而上学』岩崎勉訳、講談社学術文庫／出隆訳、岩波文庫  
アリストテレスの主著。感覚的事物の原理・原因だけでなく、万物の究極的な原理・原因である神も対象として、存在の問題について論じている。一般的な形而上学に神学という部門的な学が組み込まれる点が興味深い。
5. アリストテレス『ニコマコス倫理学』高田三郎訳、岩波文庫  
善く生きることを目指したソクラテスの精神を受け継ぎ、「幸福」、「徳（卓越性）」、「快樂」、「友愛」などについて論じた書。

### 鹿島 徹

現代日本社会の制度化された「哲学」なるものに疑問を感じる者として、推薦本を挙げることなど、なまなかにはできません。代えて、この数年のあいだに（再び）読んで、「哲学」と現代社会をめぐるさまざまな問題を考えるために「重要だ」と思った書物を、10冊挙げさせていただきます。

二階堂奥歯『八本脚の蝶』（ポプラ社、2006年）

文学部哲学専修出身の、若くして自死した女性編集者の手記。ネットでも読めるが、単行本の追悼文に注目

植谷雄高『不合理ゆえに吾信ず』（1950年、現代思想社）

「私は私だとは不快だ」という根本気分から、独特の存在論を立ち上げるアフォリズム集

ベンヤミン「歴史の概念について」（1940年）『【新訳・評注】歴史の概念について』鹿島訳・評注、未来社

従来の歴史概念を覆し、危機の瞬間に閃く過去のイメージの確保へと道を開く

ハイデガー『存在と時間』（1927年）高田珠樹訳（作品社）、細谷貞雄訳（ちくま文庫）、熊野純彦訳（岩波文庫）

2000年に及ぶ哲学の通念・常識をひっくり返す思想革命の書。ドイツ語原文でしか十分な読み取りはできないが、翻訳を使う場合には複数を併読しながら内容理解を深めるのがいいと思う。

白川静『孔子伝』（1972年、中公文庫）

被差別階層を出自とする思想家の、革命思想から卷懐の境地への道を描く



網野善彦『無縁・公界・楽』(1979年、平凡社ライブラリー)

日本史の史料のなかから、真の自由としての「無縁」という概念を掘り起こす歴史書=思想書  
辻潤『絶望の書・ですべら』(講談社文芸文庫)

大逆事件から敗戦までを文筆・門付で飄然と生きた崎人の雑文集

山崎朋子『サンダカン八番娼館』(初版1975年、文春文庫)

貧困ゆえに海外で春を鬻いだ戦前女性に密着取材した驚きのドキュメンタリー

山本義隆『私の1960年代』(金曜日、2015年)

『荒木経惟写真全集』第3巻『陽子』(平凡社、1996年)

## 小林 信之

A

1. 山崎正和編『近代の藝術論』(中公・世界の名著81)中央公論社、1979年

近代の代表的な芸術論を収めるとともに、簡潔な解説が付されている。

2. 中井正一『美学入門』中央公論社(中公文庫)、2010年

美や創造性の問題をわかりやすくまとめている。随所に著者独自の着眼点が光る。

3. マルティン・ハイデガー『ニーチェ I』白水社、2007年

美的なものをめぐる哲学の歴史を、あくまでハイデガーの視点から「概観」することができる。ニュートラルな概論や歴史書などない。

4. オスカー・ベッカー『美のはかなさと芸術家の冒険性』理想社、1964年

小論ながら、美的なものに関する鋭い洞察をふくんでいる。よき導入の書。

5. エルヴィン・パノフスキー『アイデア』平凡社(平凡社ライブラリー504)、2004年

美的なものの歴史をアイデアの変転という観点から俯瞰した古典的論考。

B

1. イマヌエル・カント『判断力批判』(世界の思想・第11巻『カント〔下巻〕実践理性批判・判断力批判/永遠平和のために』所収)河出書房新社、1965年

美や芸術の問題を考えるとき、出発点となる書物である。他にも翻訳があるが、基礎的訳語の選択から判断して、本書を推薦しておく。

2. フリードリヒ・ニーチェ『悲劇の誕生』(世界の名著・第57巻『ニーチェ ツァラトゥストラ・悲劇の誕生』所収)中央公論社、1978年

ニーチェが現代哲学におよぼした影響は測りしれない。若き哲学者の原点をなす書。

3. マルティン・ハイデgger『杣道』(ハイデgger全集 第5巻)創文社、1988年

1930年代のハイデggerの思想を集約した論文集で、「芸術作品の起源」「世界像の時代」「何のための詩人たちか」等をふくんでいる。

4. 西田幾多郎『西田幾多郎哲学論集3』、岩波書店(岩波文庫)、1989年

「自覚について」「歴史的形成作用としての芸術的創作」などをふくむ論文集。晩年の西田哲学のエッセンスを味わうことができる。

5. 九鬼周造『〈いき〉の構造』講談社(講談社学術文庫)、2003年

日本の美学を語るときに欠くことのできない小著。詳細な注釈をふくむ。

## 小村 優太

A

1. 井筒俊彦『イスラーム哲学の源像』岩波新書

後期井筒の例に漏れず講演録なので読みやすい。題名に反してその実「イスラーム神秘主義の源像」であることに注意が必要だが、深い洞察に満ちている。

2. 『新プラトン主義を学ぶ人のために』世界思想社

古代から近代に至るまでの新プラトン主義の展開、影響を概観する。新プラトン主義は西洋哲学の「裏テーマ」と言っても過言ではない。

3. 『中世の哲学 ケンブリッジ・コンパニオン』京都大学学術出版会

原著は定評のあるケンブリッジ・コンパニオン・シリーズ。人物ではなくテーマごとに章立てされており、それぞれ第一線の研究者が執筆している。

4. リチャード・E・ルーベンスタイン『中世の覚醒』ちくま学芸文庫

中世哲学の概観が見通せる通史。物語風の記述であり、「読ませる」文章である。

5. 山内志朗『普遍論争』平凡社ライブラリー

一見すると平易な語り口だが、内容はハード。名前は聞いたことのある「普遍論争」の概略を学ぶにはこの本以外にない。

B

1. 『中世思想原典集成』平凡社

全20巻にも及ぶ膨大なシリーズ。日本における中世研究の精華。第11巻『イスラーム哲学』所収の論考の多

くはここでしか読めない。現在『精選』全7巻が平凡社ライブラリーから刊行中であるが、選外の論考も多い(『イスラーム哲学』の巻からは2篇のみ)。

2. プロティノス『エンネアデス 抄』中公クラシックス  
新プラトン主義の創設者プロティノスの唯一の著作。中公クラシックス版は抄訳の全2巻。まずはこれを読めばプロティノス思想の概略をつかむことができる。
3. トマス・アクィナス『神学大全』中公クラシックス  
中世哲学の王道。中公クラシックス版はごく序盤のみの抄訳の全2巻。独特の形式が一見とつきにくい、慣れると非常に読みやすい。全訳は創文社刊(品切多)。
4. アリストテレス『魂について』京都大学学術出版会/岩波書店など  
現代ではあまり読まれないが、後期古代から中世において、哲学は『形而上学』と『魂について』を中心に回っていた。ここから生まれた「能動知性」論は一大テーマである。
5. ガザーリー『哲学者の自己矛盾』平凡社東洋文庫  
中世イスラームの神学者ガザーリーによる哲学者批判の書。主にアヴィセンナとファーラービーが標的にされた。アヴェロエスはこれに対して『矛盾の矛盾』で論駁する。

## 西山 達也

A

1. 小林道夫・小林康夫・坂部恵・松永澄夫編『フランス哲学・思想事典』弘文堂  
フランス哲学を広範に網羅していることで定評のある事典。
2. 伊藤直樹・齋藤元紀・増田靖彦編『ヨーロッパ現代哲学への招待』梓出版社  
現代ヨーロッパの代表的哲学者の思想とトピックを学ぶことができる概説書。
3. 戸島貴代志・本郷均『現代フランス哲学に学ぶ』放送大学教育振興会  
ベルクソン・現象学・フーコー・リクールを中心にフランス現代哲学を時代順に解説している。
4. 坂部恵『仮面の解釈学』東京大学出版会(『坂部恵集3』岩波書店所収)  
入門書・解説書と呼ばれる書物とは異なるアプローチでフランス哲学に入門できる貴重な一冊。
5. 熊野純彦『レヴィナス 移ろいゆくものへの視線』岩波現代文庫  
レヴィナスの主要著作を読み解きながら、単なる専門研究書にとどまらない射程をもつ良書。

B

1. フッサール『デカルト的省察』岩波文庫  
フッサール自身による現象学の概説に加えて、徹底的なデカルトとの対決を読むことができる。
2. レヴィナス『実存の発見』法政大学出版局  
現象学運動の奥深さに触れながらレヴィナスという思想家の独自の世界を探索できる。
3. デリダ『有限責任会社』法政大学出版局  
デリダとジョン・サールとの論争の書。デリダの思考のリズムと方法が凝縮されている。
4. ドゥルーズ『差異と反復』河出文庫  
刊行後半世紀を経てようやくその可能性と肥沃さが明らかになりつつある古典的名著。
5. モンテーニュ『エッセー』岩波文庫、白水社、河出書房新社  
デカルトやパスカルに影響を与えた近代哲学の祖が残した人間研究の宝庫。

## 御子柴 善之

A

1. 有福孝岳・牧野英二編『カントを学ぶ人のために』世界思想社、2012年  
カント哲学のさまざまな側面(理論哲学、実践哲学、宗教哲学、歴史哲学、平和論など)に対して、周到な解説を加えた入門書。
2. 石川文康『カント入門』ちくま新書、1995年  
独自の切り口から、カント哲学を親しみやすく解説している好著。同じ著者による入門書、『カントはこう考えた』(筑摩書房、1998年)もある。
3. H・M・バウムガルトナー『カント入門講義』法政大学出版局、1994年  
カントの『純粋理性批判』の全体像をつかむには好適な書物。原語は平易なドイツ語で書かれている。翻訳にはいくぶん問題がある。
4. ブライアン・マギー『哲学者』(上・下)NHK出版  
マギーの自伝でもあるが、彼の出会った人物(特にポパーやラッセル)の描き方が興味深い。「哲学する」ことを実感させてくれる好著。
5. 中島義道『悪について』岩波新書、2005年  
カント倫理学を身体をもって生きる人間に即して語り抜いた好著。「悪」の観点から、教科書的なカント入門書とはまったく異なる展望をひらいている。

B

1. カント『道徳形而上学の基礎づけ』

カント倫理学が最初に提示された書。以文社から刊行されている宇都宮芳明訳がよい。

2. カント『プロレゴメナ』  
カントの理論哲学を分かりやすく伝えてくれる書。実は論争的な書物でもある。「カント全集」に入っている久呉高之訳がよい。
3. フィヒテ『浄福なる生への導き』平凡社ライブラリー、2000年  
これは、フィヒテの宗教哲学の書であり、またドイツ観念論の性格を明瞭に伝える書物でもある。大変平易な改訂・補訳が平凡社から刊行された。
4. ロールズ『正義論』改訂版、紀伊國屋書店、2010年  
「正義」の古典としては、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』があるが、これは現代の古典とも言うべき著作。大著だが、怖がることなく読み始めたい。
5. ベンハビブ『他者の権利—外国人・居留民・市民』法政大学出版局、2006年  
上記のロールズに対して、正義論に内在する立場から批判を加えた好著。カントの世界市民法の意義を理解するための手がかりにもなる。

## 村松 聡

A

1. 加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学芸文庫  
応用倫理学の分野では、シャープな議論展開といい、現実と哲学両方についての深い見識といい、現在日本の倫理学における第一人者である加藤尚武さんが一番いいものを書いています。
2. ハーストハウス『徳倫理学について』知泉書店、2014  
ハーストハウスは教科書として考えたようだが、日本の教科書レベルで考えると間違える高度な内容。豊富な例で様々な問題を考えているので、これはお薦め。
3. 加藤尚武 / 飯田亘之『バイオエシックスの基礎』東海大出版会  
1960～1980年代までの英米系の様々な生命倫理のテーマに関する論文を集めたアンソロジー。出版は古いですが、英米系の議論を知るためには依然として必須文献。
4. ビーチャム / ボウイ『企業倫理学1～4』晃洋書房  
企業倫理学について、テーマごとに章をもうけ、最初に争点、主要な主張を簡単に解説。その後、pro and contraの形をとりながら、主要論文を挙げ、事例を紹介。論争点、問題のありかを知るには格好の書。
5. J.R. ジャルダン『環境倫理学 - 環境哲学入門』人間の科学社、2001  
環境倫理学を包括的に解説している非常に良質な文献。入門と書いているし、教科書の形をとっていますが、内容的には、かなりハイレベルなものを含む「教科書」。

B

1. ダニエル・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』春秋社、2015  
コンパニオンとは、英米圏の哲学で、手引きのことで、多くの研究者の論考を、その分野を概観するために集めている論考集のこと。これは、ケンブリッジ出版から出しているこうしたコンパニオン。徳倫理を概観するためにはとてもよい。
2. ビーチャム/ チルドレス『生命医学倫理』第5版、麗澤大学出版会、2009年  
生命倫理の分野で唯一、古典として誰もが認める本です。残念ながら、現在絶版状態。図書館で借りましょう。
3. メルロ・ポンティエ『知覚の現象学』みすず書房と法政大学出版局、2種類あり  
メルロ・ポンティエの主著。「世界のうちに礎を降ろした」身体に着目して、人間存在を単なる意識でもなければ、単なる物質でもないもの、単に能動的でもなければ、単に受動的でもないもの、総じて「二義性」をもつ存在として特徴付けています。現象学の広がりや堪能しましょう。
4. シェーラー、シェーラー著作集8巻「同情の本質と諸型式」白水社  
共感とは何か、同情とはどのような感情か、について、深く分析した哲学書。メルロ＝ポンティエなど多くの哲学者に影響を与えている。例も豊富に出ているので、食いつけないものではない。
5. ロック『人間知性（悟性）論』岩波文庫  
現代パーソン論の出発点となった、第2巻27章の同一性の議論を読みましょう。ロックはパーソンの本質を記憶として特徴付けています。30頁ほどで、他から独立しても一応読めます。

## 2019年度 文学部哲学コース卒業論文題目一覧

痛みの表現にまつわる共感の力	中間領域としての独我論的世界
ニコマコス倫理学における行為と徳について	アイデンティティについて
『ニコマコス倫理学』における快樂を巡る様々な問題について	共同感情について
エックハルトにおける似像と範型	虚構における非倫理的事象の在り方について
監視社会の哲学	ドゥルーズ『差異と反復』における個体化と個体について
脚本と演出の関係性	プラトンにおける知識とは何か
マッキンタイアの徳論について	精神分析とフェミニズム
時間について	ジャン＝リュック・ナンシーにおける存在論の基礎づけ
ソクラテス以前の哲学に対するプラトン思想の特異性	看護におけるケアリング
言語にとって定型とは何か	現象学的還元の始まり
信仰と狂気	ロラン・バルト「作品からテキストへ」における「容認可能な複数性」と「還元不可能な複数性」についての考察
ニヒリズムと唯一者	哲学の対象について
マゾヒズムの要素について	「意志の自由」の解明
音楽における時間の概念	ニヒリズムと政治
『斜陽』にみる人生の諸相	すべては〈旅〉である
ボーヴォワールとイリガライにおける「母」の比較	人はホラーに何を求めるか。
ヒュームにおける道徳論への一批評	哲学と死
全般経済学の曖昧さと自己意識	
ジョン・ロールズ『正義論』について	
ソシュールにおける言語の意味論について	

## 2020年度 文学部哲学コース卒業論文題目一覧

古代ギリシア哲学にみる本質とその直観	ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』研究
アリストテレス『形而上学』における「第一の不動の動者」	ベルクソン哲学における笑いと現代のお笑いの関係性
スマートフォンと写真	1940年代のエマニュエル・レヴィナスにおける現象学的存在論
スピノザ『エチカ』における道徳性	社会的構築物としての性別カテゴリーの解体可能性
エイヤーの検証可能性原理と倫理学説	プラトンの政治哲学における国家と為政者
ジョン・デューイの哲学思想	
スピノザのコナトゥス論	
言葉以前の地平まで	
いかにして人は幸福となりえるか	
ハイデガー『形而上学入門』における「ポレモス」について	
物理主義の可能性	
サルトルの自由	
ニーチェの生の肯定——芸術的存在を中心に	
スクリーンのなかの現代人	
クンデラ作品における反抒情主義	
コギトと思考可能性	
日本の死刑制度問題について	
抑制のない行為はいかにして起こるか	
家族の「愛」とは	
マーサ・ヌスバームの『感情』論	
バタイユ研究	